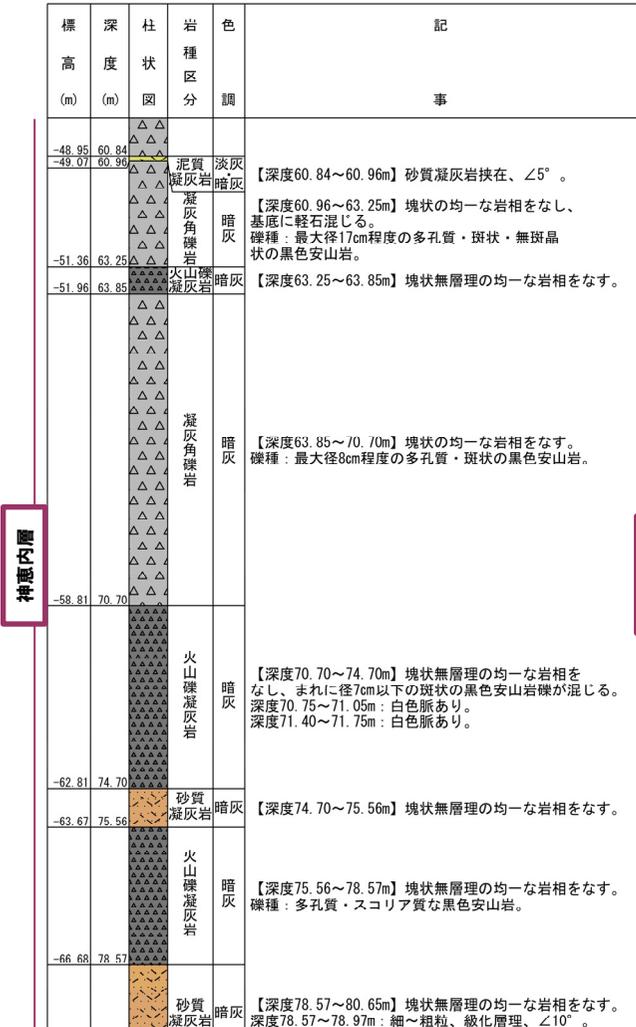


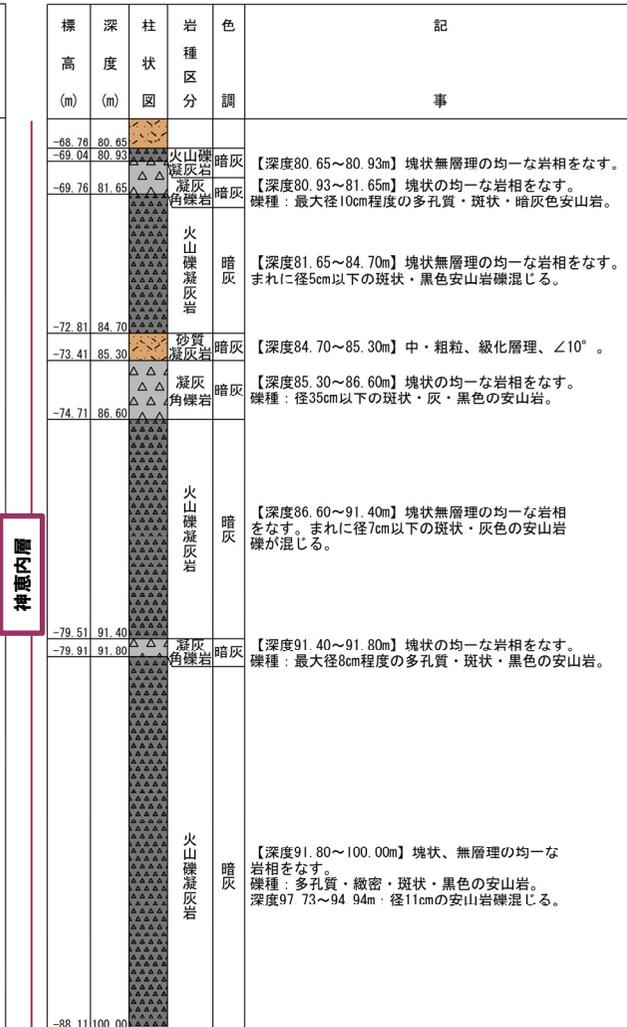
# 2.2 岩内平野西部で実施したボーリング調査結果

## H26共和-4地点 ボーリング柱状図(2/2)

一部修正 (H27/5/29審査会合)



ボーリング柱状図(深度60~80m)



ボーリング柱状図(深度80~100m)

凡例

- [Symbol] 腐植質土
- [Symbol] 凝灰角礫岩
- [Symbol] シルト
- [Symbol] 火山礫凝灰岩
- [Symbol] 腐植質シルト
- [Symbol] 泥質凝灰岩
- [Symbol] 砂質シルト
- [Symbol] 砂質凝灰岩
- [Symbol] 礫混じり砂質シルト
- [Symbol] 砂
- [Symbol] シルト質砂
- [Symbol] シルト混じり砂
- [Symbol] 礫混じり砂
- [Symbol] シルト混じり砂礫
- [Symbol] 砂礫
- [Symbol] シルト質礫
- [Symbol] 礫

## 2. 2 岩内平野西部で実施したボーリング調査結果

H26共和-5地点 ボーリングコア写真(1/4)

一部修正(H27/5/29審査会合)



コア写真(深度0~15m)



コア写真(深度15~30m)

## H26共和-5地点 ボーリングコア写真(2/4)

一部修正 (H27/5/29審査会合)



コア写真 (深度30~45m)



コア写真 (深度45~60m)

## H26共和-5地点 ボーリングコア写真 (3/4)

一部修正 (H27/5/29審査会合)



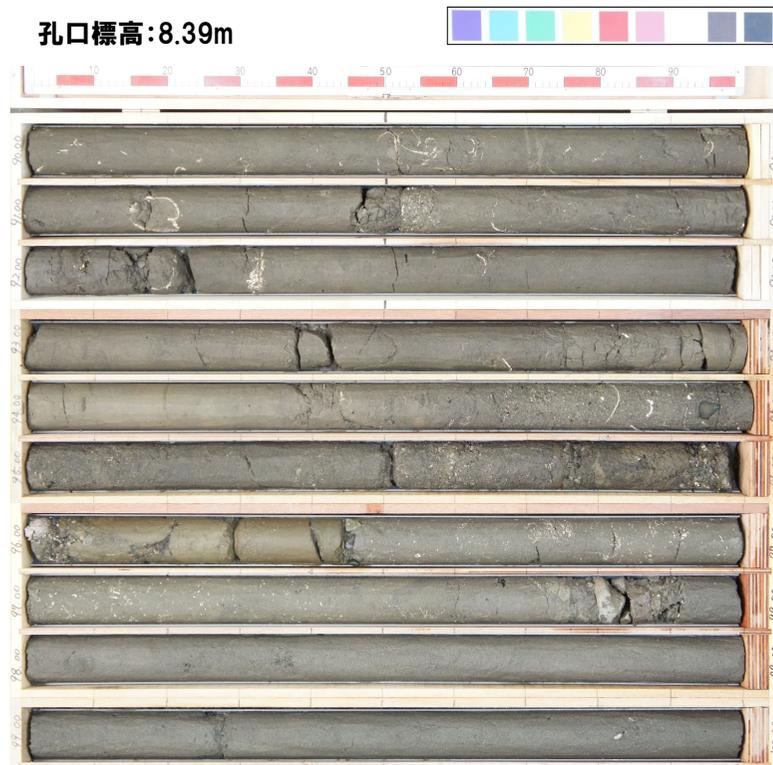
コア写真 (深度60~75m)



コア写真 (深度75~90m)

## H26共和-5地点 ボーリングコア写真(4/4)

一部修正(H27/5/29審査会合)



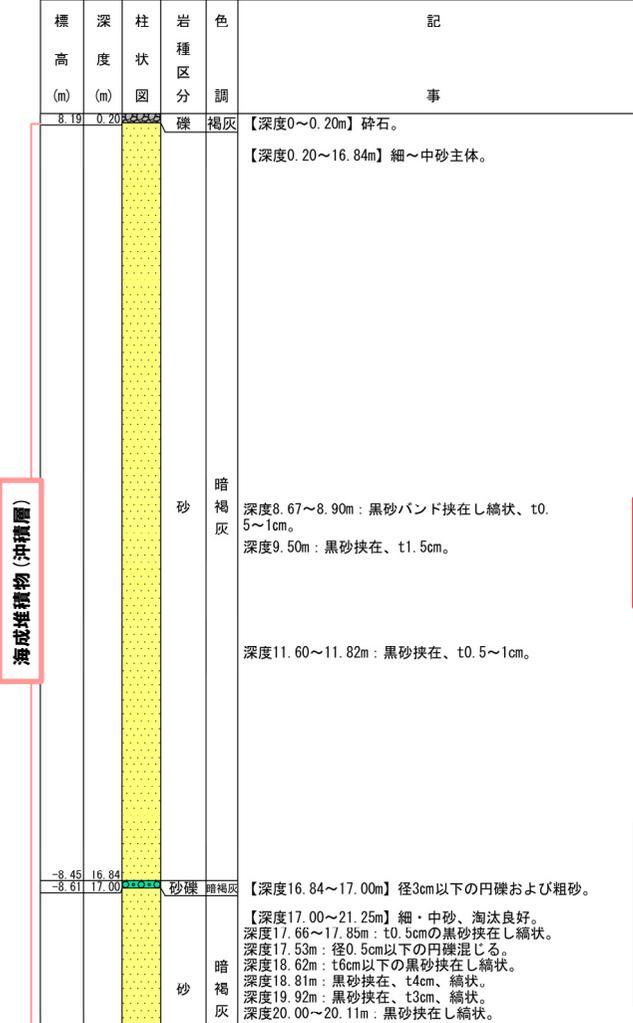
コア写真(深度90~100m)

# 2.2 岩内平野西部で実施したボーリング調査結果

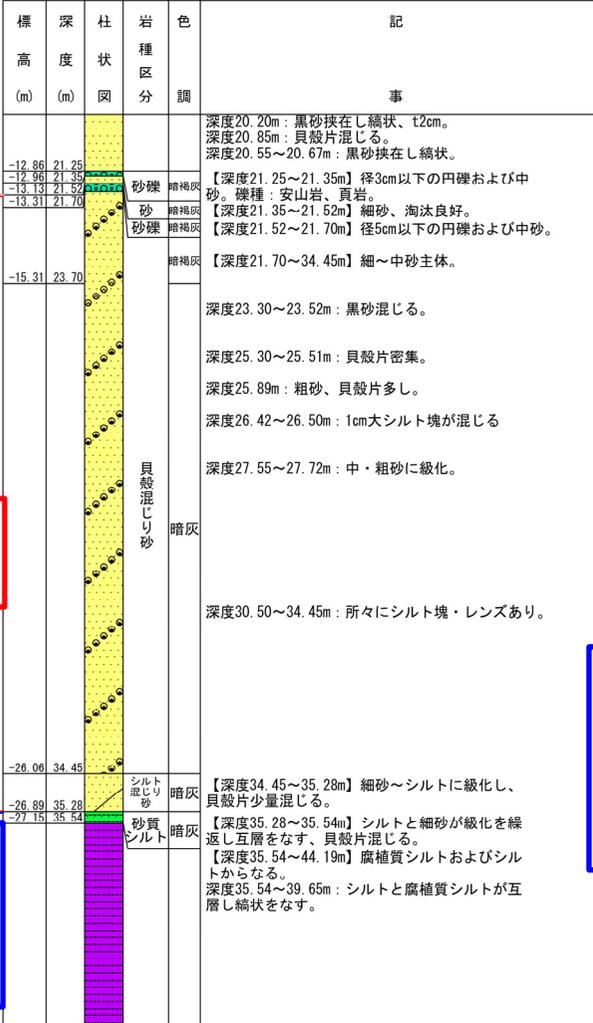
## H26共和-5地点 ボーリング柱状図(1/2)

一部修正 (H27/5/29審査会合)

H26共和-5 孔口標高 8.39m 掘進長 100.00m

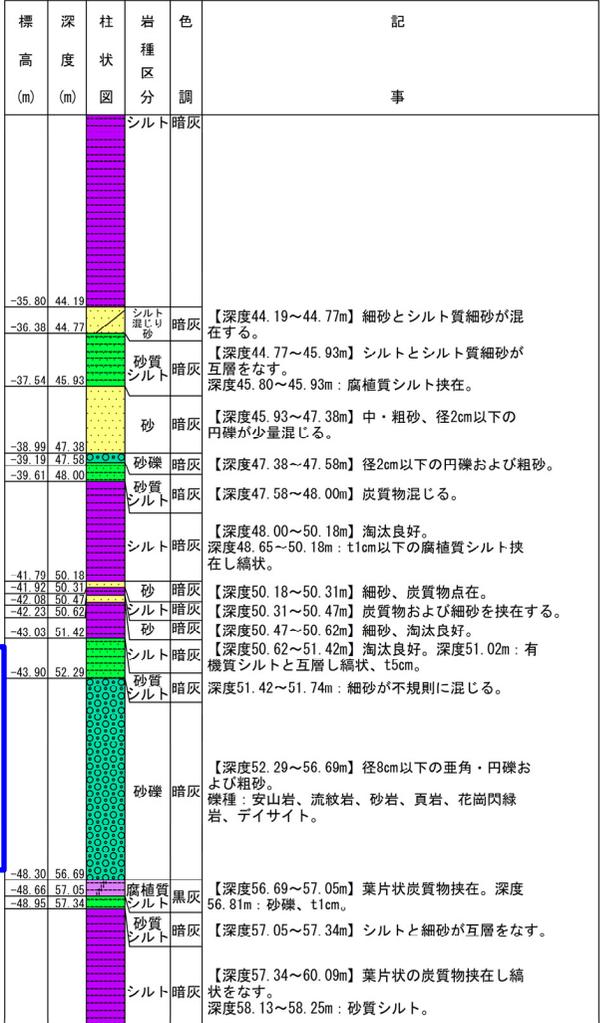


海成堆積物(沖積層)



岩内層

野礫層(下部層相当)



野礫層(下部層相当)

ボーリング柱状図(深度0~20m)

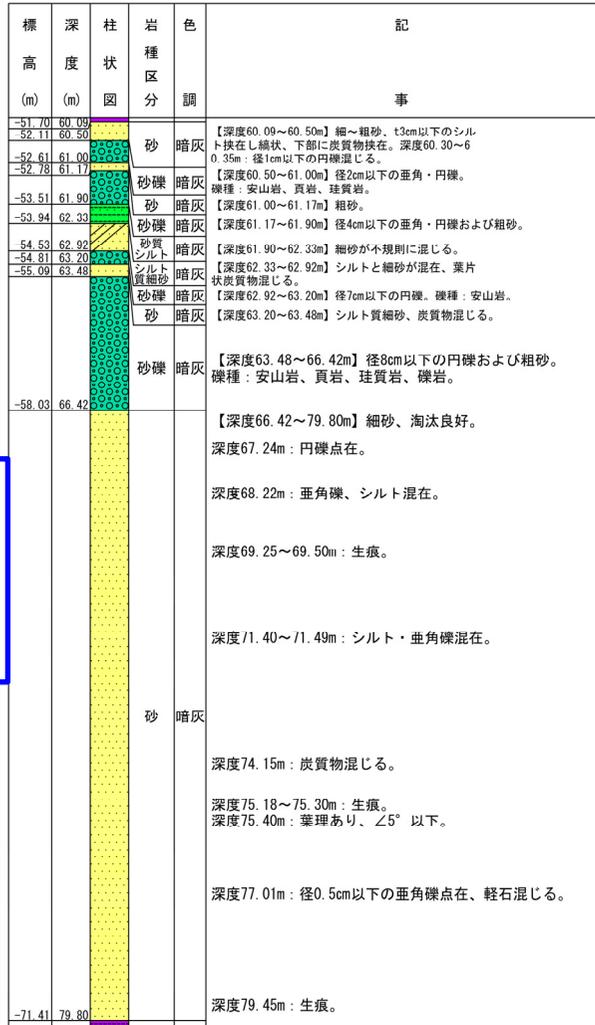
ボーリング柱状図(深度20~40m)

ボーリング柱状図(深度40~60m)

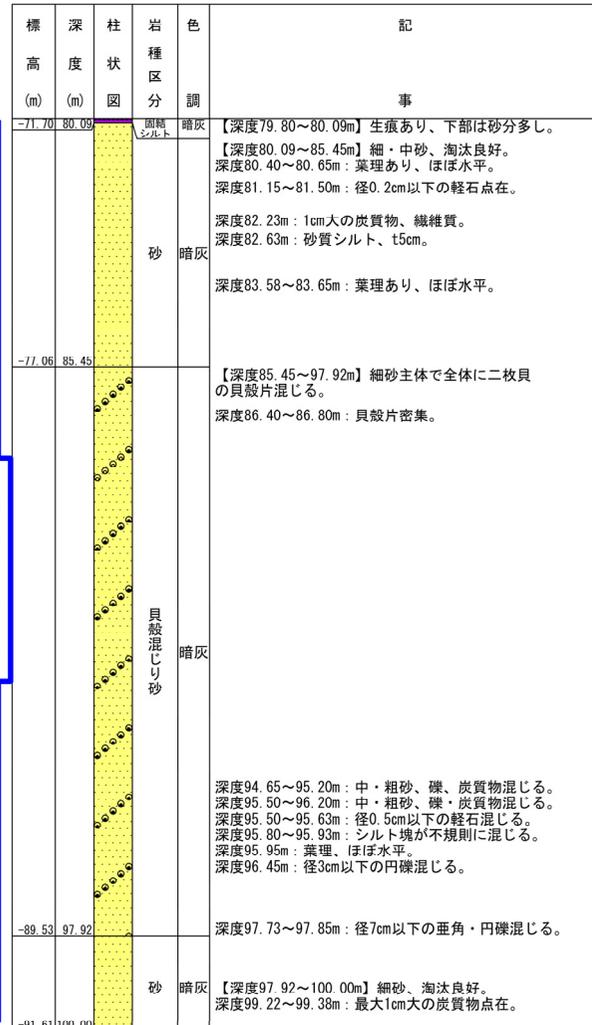
# 2.2 岩内平野西部で実施したボーリング調査結果

## H26共和-5地点 ボーリング柱状図 (2/2)

一部修正 (H27/5/29審査会合)



ボーリング柱状図 (深度60~80m)



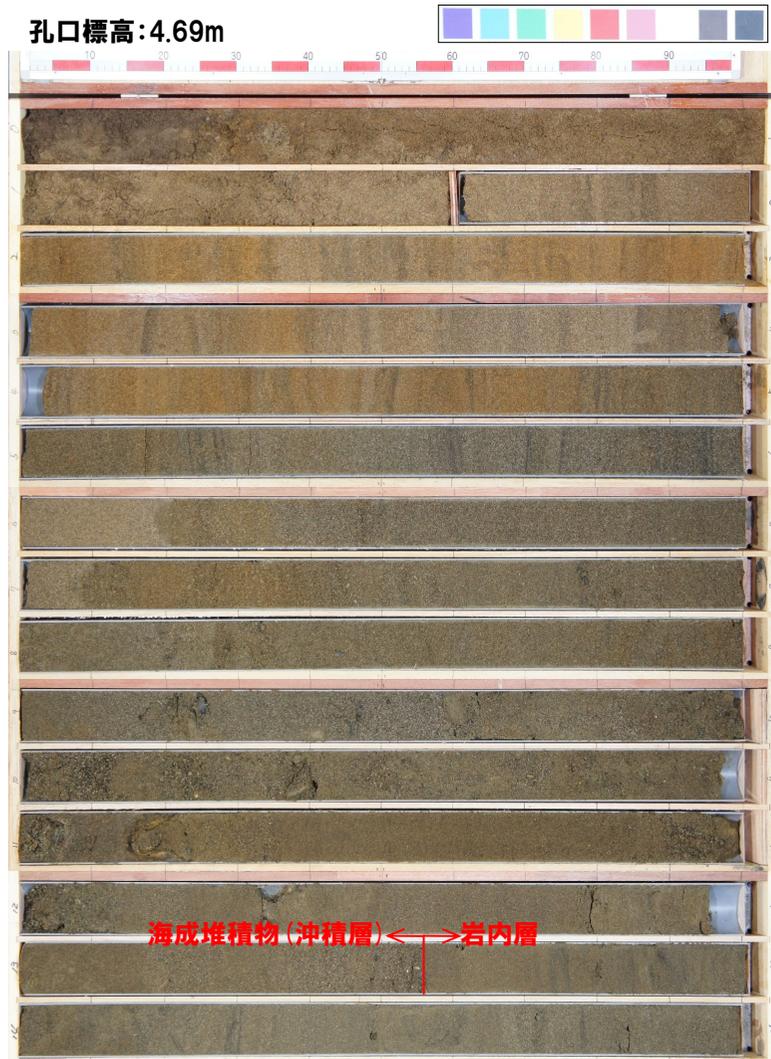
ボーリング柱状図 (深度80~100m)

- 凡例
- [Pattern] シルト
  - [Pattern] 腐植質シルト
  - [Pattern] 砂質シルト
  - [Pattern] 砂
  - [Pattern] シルト混じり砂
  - [Pattern] シルト質細砂
  - [Pattern] 貝殻混じり砂
  - [Pattern] 砂礫
  - [Pattern] 礫
  - [Pattern] 固結シルト

## 2. 2 岩内平野西部で実施したボーリング調査結果

H26共和-6地点 ボーリングコア写真(1/3)

一部修正(H27/5/29審査会合)



コア写真(深度0~15m)



コア写真(深度15~30m)

## 2.2 岩内平野西部で実施したボーリング調査結果

H26共和-6地点 ボーリングコア写真 (2/3)

一部修正 (H27/5/29審査会合)



コア写真 (深度30~45m)



コア写真 (深度45~60m)

## H26共和-6地点 ボーリングコア写真 (3/3)

一部修正 (H27/5/29審査会合)



コア写真 (深度60~75m)



コア写真 (深度75~90m)

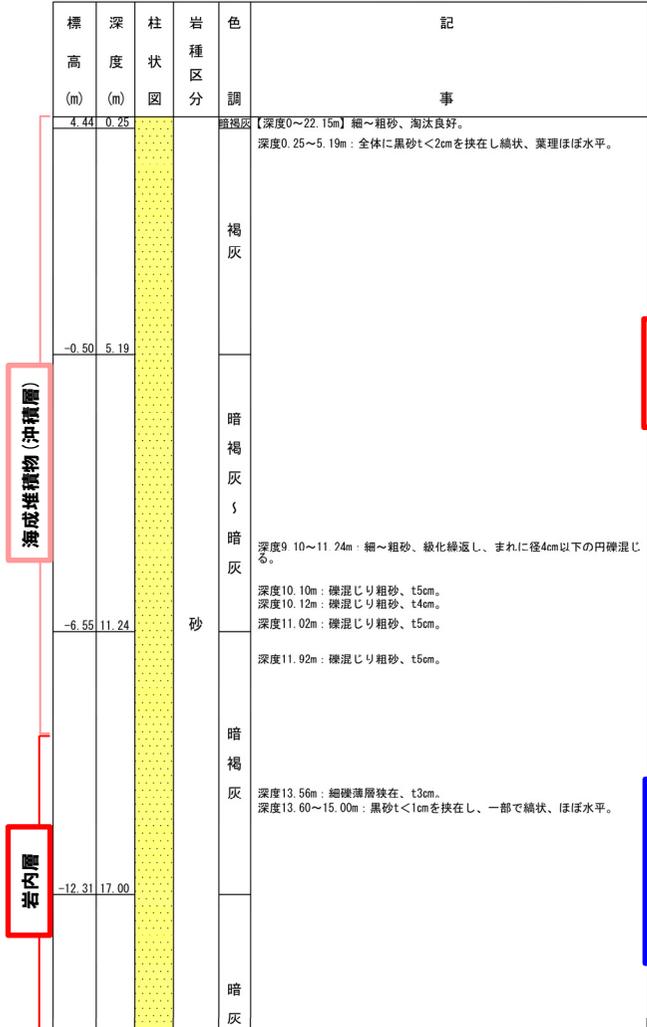
余白

# 2.2 岩内平野西部で実施したボーリング調査結果

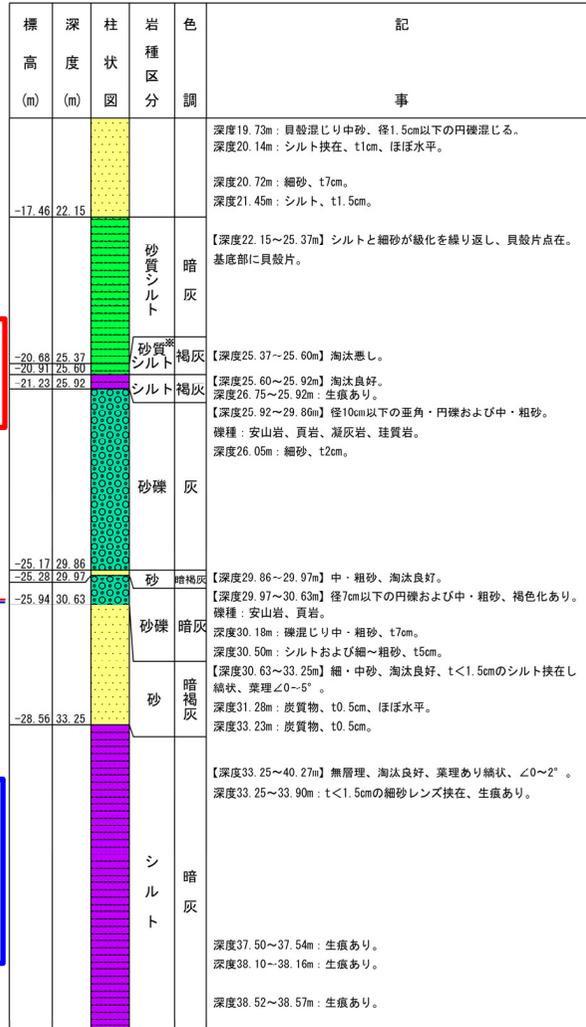
## H26共和-6地点 ボーリング柱状図(1/2)

一部修正 (H27/5/29審査会合)

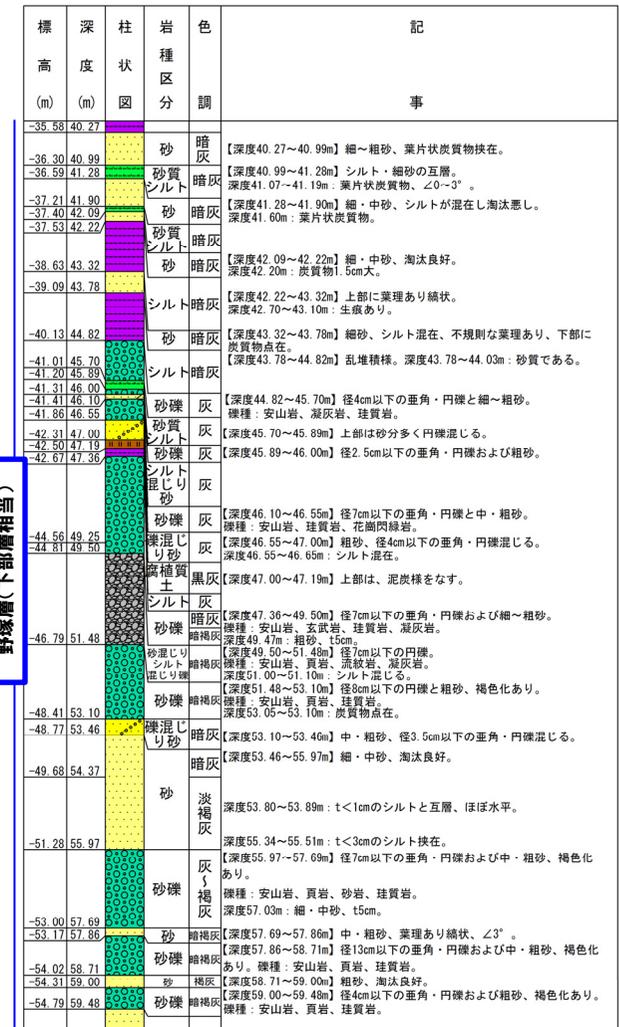
H26共和-6 孔口標高 4.69m 掘進長 90.00m



ボーリング柱状図(深度0~20m)



ボーリング柱状図(深度20~40m)



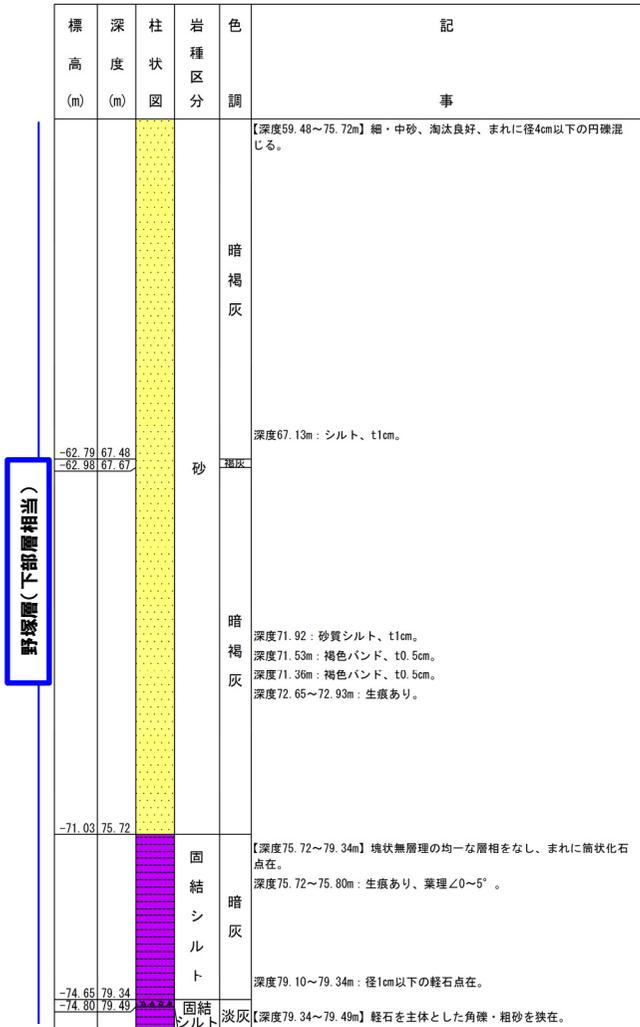
ボーリング柱状図(深度40~60m)

※H27.5.29審査会合資料では、当該砂質シルトの深度及び標高について、深度23.57~25.60m(標高-20.91~-18.88m)としていたが、誤記であるため、今回修正した。

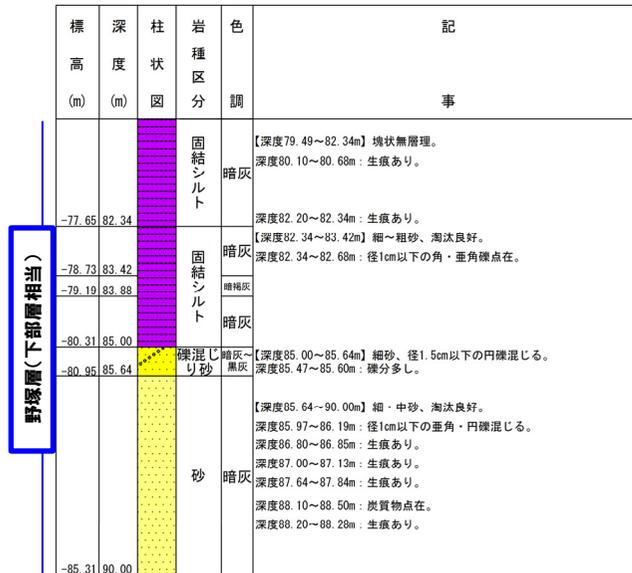
# 2.2 岩内平野西部で実施したボーリング調査結果

## H26共和-6地点 ボーリング柱状図 (2/2)

一部修正 (H27/5/29審査会合)



ボーリング柱状図 (深度60~80m)



ボーリング柱状図 (深度80~90m)

凡例

- 腐植質土
- シルト
- 砂質シルト
- 砂
- シルト混じり砂
- 礫混じり砂
- 砂礫
- 砂混じりシルト混じり礫
- 固結シルト

## H26共和-7地点 ボーリングコア写真(1/4)

一部修正(H27/5/29審査会合)

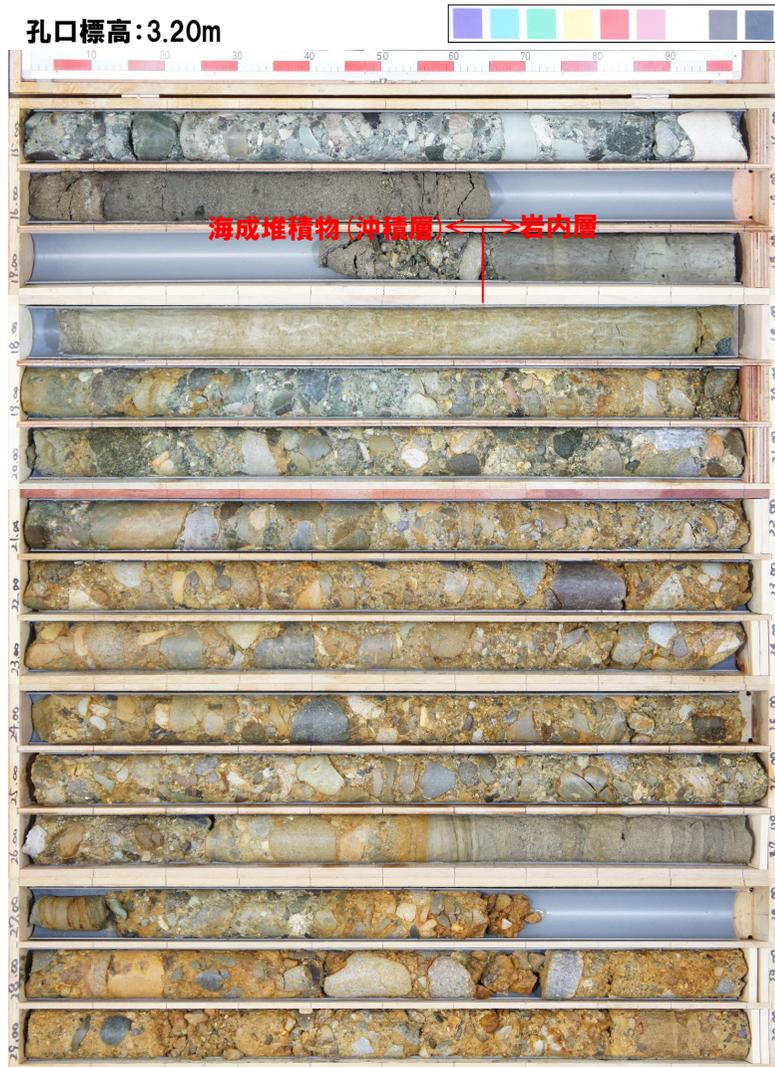


コア写真(深度0~15m)

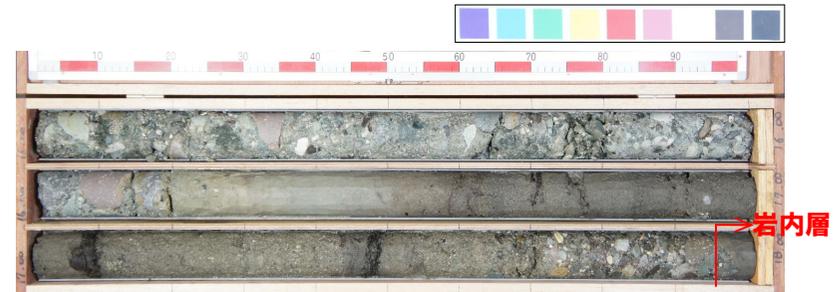
## 2.2 岩内平野西部で実施したボーリング調査結果

### H26共和-7地点 ボーリングコア写真 (2/4)

一部修正 (H27/5/29審査会合)



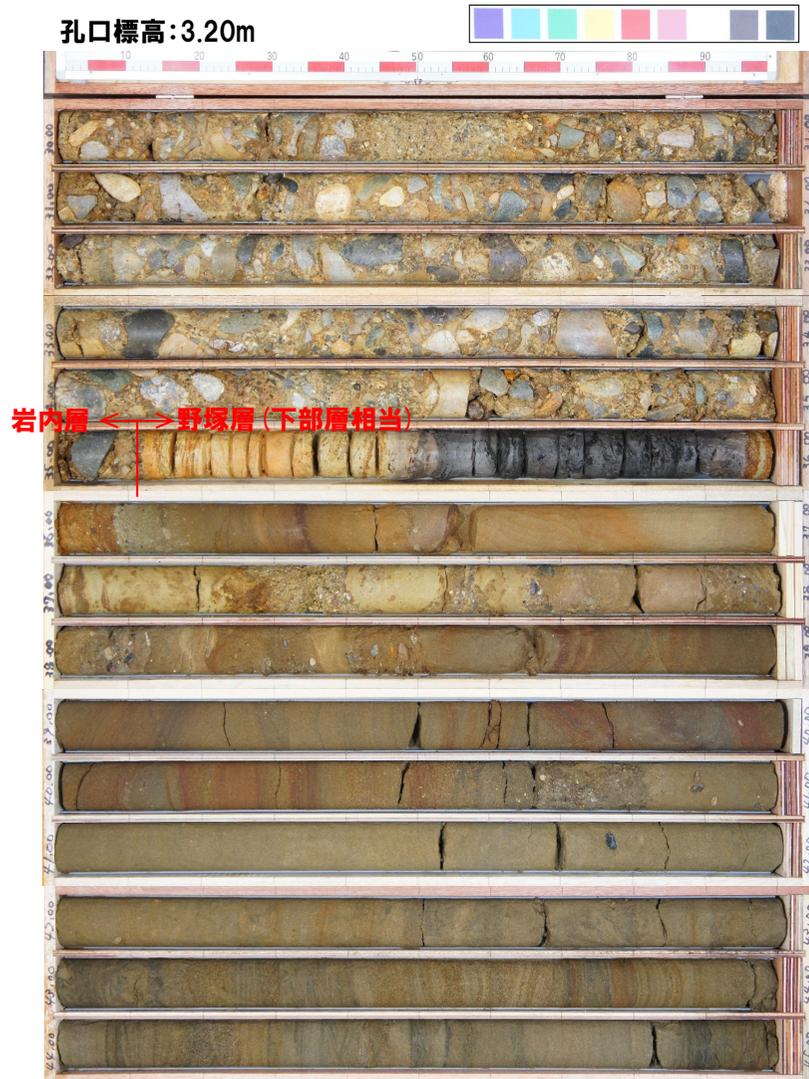
コア写真 (深度15~30m)



コア写真 (深度15~18m) 別孔

## H26共和-7地点 ボーリングコア写真 (3/4)

一部修正 (H27/5/29審査会合)



コア写真 (深度30~45m)



コア写真 (深度45~60m)

## H26共和-7地点 ボーリングコア写真(4/4)

一部修正 (H27/5/29審査会合)



コア写真(深度60~75m)



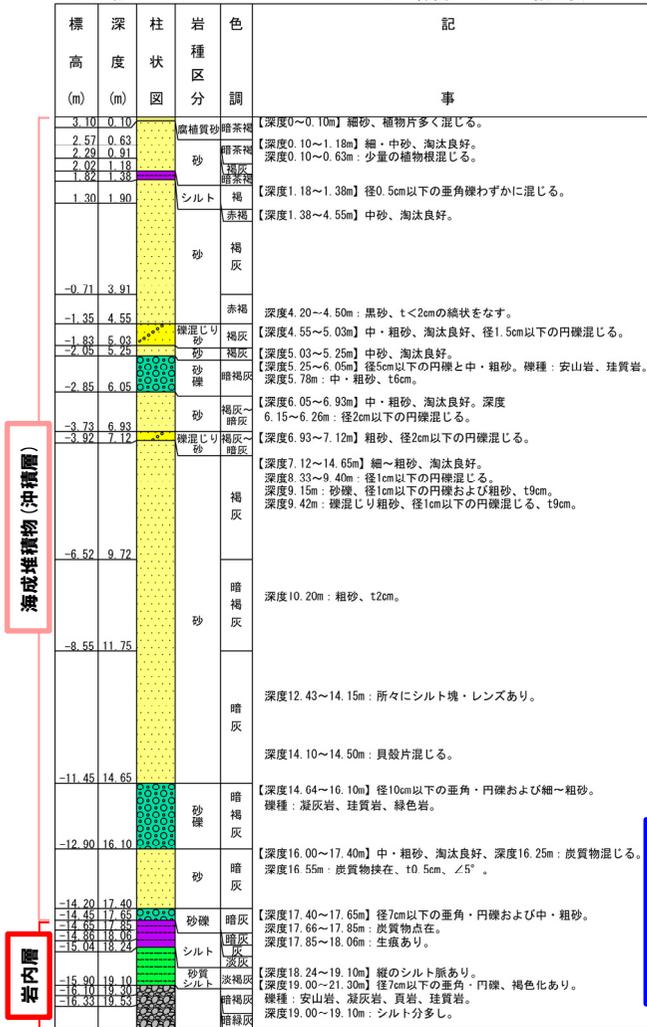
コア写真(深度75~90m)

# 2.2 岩内平野西部で実施したボーリング調査結果

## H26共和-7地点 ボーリング柱状図(1/2)

一部修正 (H27/5/29審査会合)

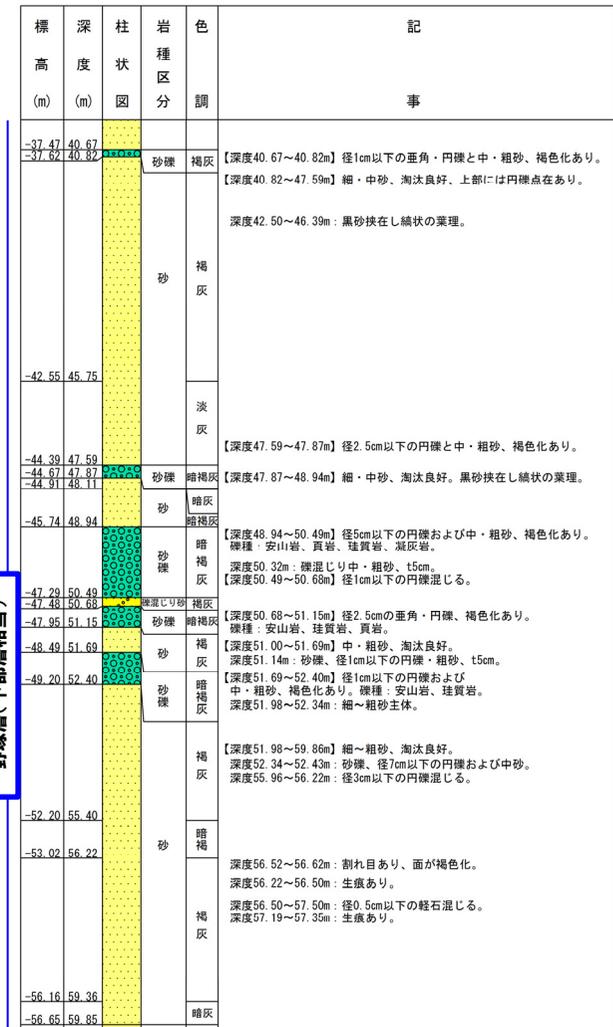
H26共和-7 孔口標高 3.20m 掘進長 90.00m



ボーリング柱状図(深度0~20m)



ボーリング柱状図(深度20~40m)

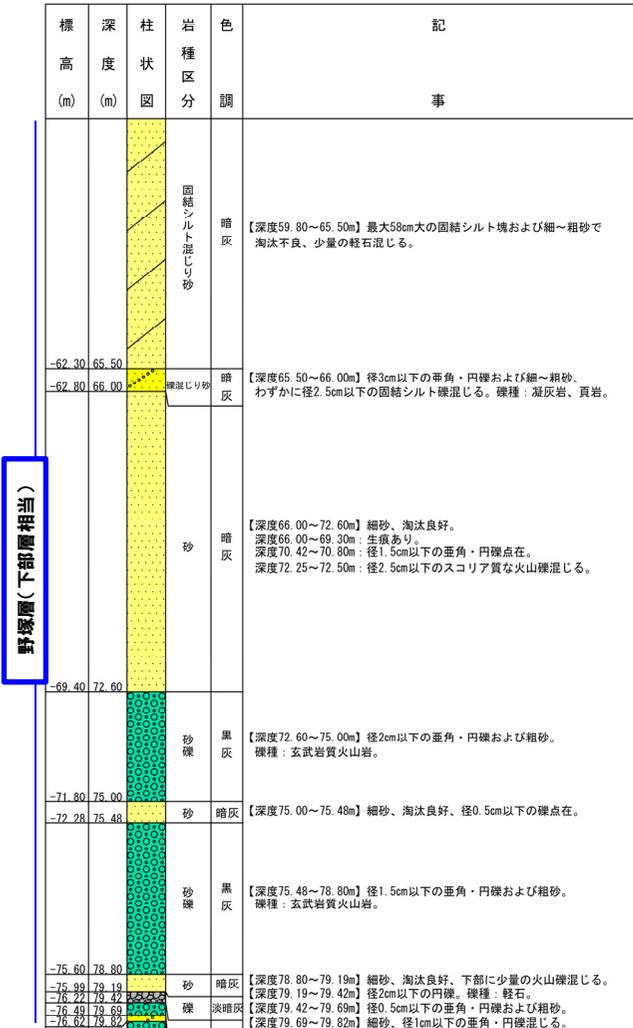


ボーリング柱状図(深度40~60m)

# 2.2 岩内平野西部で実施したボーリング調査結果

## H26共和-7地点 ボーリング柱状図 (2/2)

一部修正 (H27/5/29審査会合)



ボーリング柱状図 (深度60~80m)



ボーリング柱状図 (深度80~90m)

凡例

- シルト
- 腐植質シルト
- 砂質シルト
- 砂
- 腐植質砂
- 礫混じり砂
- シルト混じり砂礫
- 砂礫
- 礫
- 固結シルト
- 固結シルト混じり砂

余白

### **3. 老古美周辺において確認されるニセコ火山噴出物(火砕流堆積物)**

## ① まとめ(1/2)

一部修正(H29/12/8審査会合)

- 考古美周辺においては、礫混じり火山灰(軽石及びスコリアが含まれる)の層相を呈する、ニセコ火山噴出物(火砕流堆積物)が認められる。
- 当該火砕流堆積物の特徴は、以下のとおりである。

岩石記載的特徴(P151~P153参照)

- 火山ガラス及び重鉱物の屈折率は、以下の範囲を主体とする。

(屈折率)

- ・火山ガラス : 1.497~1.505
- ・斜方輝石 : 1.700~1.716 (1.700~1.706, 1.710~1.716 bimodal)
- ・角閃石 : 1.675~1.685

- 火山ガラスの主元素組成のうち、 $TiO_2$ 、 $Na_2O$ 及び $K_2O$ は、以下の範囲を主体とする。

(主元素組成)

- ・ $TiO_2$  : 0.1~0.5wt.%
- ・ $Na_2O$  : 2.6~3.5wt.%
- ・ $K_2O$  : 3.4~4.4wt.%

噴出年代(P154~P165参照)

- 本火砕流堆積物の給源は、ニセコ・雷電火山群のうち、白樺山、シャクナゲ岳及びチセヌプリのいずれかと推定される。
- 本火砕流堆積物は、洞爺火山灰(Toya)の下位の層準と判断される。
- 考古美地点②において、本火砕流堆積物から、フィッシュトラック法年代測定値 $0.19 \pm 0.02Ma$ を得ている。

層厚(P166~P195参照)

- 給源(シャクナゲ岳と仮定※)からの距離とニセコ火山噴出物(火砕流堆積物)の層厚の関係については、データ数が少なく、評価が難しいものの、当該堆積物が確認される調査地点のうち、シャクナゲ岳から最も遠いH29岩内-5地点における層厚は約20cmであり、この地点は、石田ほか(1991)に示された火砕流堆積物の分布範囲の末端付近に位置する。
- また、H29岩内-5地点よりも北側で実施した地質調査(H29岩内-2, H29岩内-3, H29岩内-4及び梨野舞納地点)の結果、ニセコ火山噴出物(火砕流堆積物)は確認されない。

※ニセコ火山噴出物(火砕流堆積物)の給源と推定される3火山(白樺山、シャクナゲ岳及びチセヌプリ)はいずれも近接していることを踏まえ、給源は、3火山の中央に位置するシャクナゲ岳と仮定した。